

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	子どもの意識のベースを探る : 6年生の「おうち」意識・生命体の連続性
Author(s)	柴田, 加枝子; 宮田, 雅智
Citation	児童の言語生態研究 , 16 : 125 - 130
Issue Date	2004-02-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045199
Right	
Relation	



子どもの意識のベースを探る

6年生の「おうち」意識・生命体の連続性

■教材『ノンちゃん』石井桃子

柴田 加枝子
宮田 雅智

一、日時

平成十三年度八月七日（火）
午前九時～九時四十五分

二、児童

新潟県新潟市立割野小学校 六年
柴田加枝子学級（男六名 女五名 計十一名）

三、領域

感情

四、授業テーマ

子どもの意識のベースを探る——六年生の「おうち意識」（生命の連続をどう考えているか）——

五、テーマ設定の理由

我々は、子どもたちが「別の世界」に向かわんとする時に、その起点（もと）となる場所（うち）をどの

ように意識しているのかを探ってきた。その意識とは、つまり、生命体が「休み」「帰る」場所（うち）の時間・空間・人間意識のことである。それらを明らかにすることによって、最も根本的な子どもの意識のベースを探ることができると考えた。それは子どもたち自身が意識的にせよ無意識的にせよ作り上げてきている世界観を探ることもあった。

だから、もし子どもたちがこの「うち」を忘れたとしたら、人間としての秩序そのものを失い、生命の尊さも失うことになってしまう。

人の子がこの世に生を受けた時、老若男女様々な異なった者たちがその子の前に現れ、この生命体を守り育てていき、限らない愛情を注ぎ込む。この人間関係は「生命体の連続性」という意識において時間性と不可分である。それが日本人の「血筋」「家系」「跡継ぎ」に対するこだわりでもあった。

これらの意識は個人を縛るものとして現代では忌み嫌われるものとなってしまった。しかし、それらが大

きな時間の流れの中に自己の存在を位置づけ、しっかりとした人間に成長する上での価値的な側面がある事も忘れてはならない。そうした時間性を伴わせて意識の中の「うち」を再構築していけるのは六年生の段階なのではないかと考えた。

今回授業を行う割野小学校の子どもたちは三世代・四世代が同居して代々続いてきている家が多数を占めている。子どもたちにとっては核家族の家庭ばかりの地域よりは「生命体の連続性」について実感があると考えられる。しかし我々が本当に語ってほしいのは現象的な家族構成などに伴う意識などではなく、それぞれの子も達が時間性・空間性のイメージや人間関係意識の中から作り上げる意識世界そのものである。親が子を産み、子がいつの日か親となる。「今」の積み重ねが歴史を作っていく。その永遠の連続が未来をも作っていく。子どもたちが自分の生命を休め、次の力を得る場である「うち」の中で、どのようなイメージ世界での時間の流れに包まれて生きているのかを明

確にしていきたい。

六、指導計画（二時間扱い）

七、本時の目標

今を視点として、生命体の連続意識をとらえたか。

八、本時の展開

学習活動	学習への支援 ※観察の視点
一、本時の学習 ●今日はノンちゃんのお話を読んで、ノンちゃんの心の中を考えて見たいと思います。	●意識のベースを考えることを示唆する。
二、ノンちゃんの話(1)を読む。 ●ノンちゃんの話を読みながら、ノンちゃんの心の中を断続的に追う。 ●「おじいちゃんのおとうさんがごどものころ」おじいちゃんのおとうさんってだれのこと。 ●ひいおじいちゃんいる人。 ●(1)の続きを読む。 「長い果てしない道でした。」ノンちゃん	●ノンちゃんちゃんの話(1)を(1)を配布する。 ●黙読をしてから。 (ひいおじいちゃん) (かなえさんや、ひでき君) (夢を見たんじゃないの?) (夢の中でおじいちゃんを

●(2)を読む 「何か」によこによつてなにを見たのでしょうか。	●(3)を読む ノンちゃんの目についたものは何でしょうか。	見たかも (生き物がいた) (幽霊) (お化け) (暗いところが好きな生き物) (ひいおじいちゃんを見たのかな)
三、図を作ることでよつて、生命体の連続性を意識する。 (ノンちゃんを中心にその前後を図にする)	前 後 曾祖父 祖父 父 ノンちゃん 子 孫 曾孫 ●ノンちゃん以前を考える。ノンちゃん以後を考える。 ●このつながりを示す道は何だろう。	前後の道を考える。 ●過去と未来が分かるように考える。 (ひいおじいちゃんからずっと続いている道) (ノンちゃんの家の人たち全員の道) (家の道) (血筋の道) (命の道) (子孫へと続く道)
四、今とむかしについて考える。	●(4)を読む ●「むかし」にしめつけられているノンちゃん、何でむかしのことで頭がいっぱいだったのでしょうか。 ●写真を見る 今、この写真はおとうさん、おかあさん、赤ちゃんだね。 この赤ちゃんは二〇〇一年の今、おかあさんです。今は、おじいちゃん、おばあちゃん、おかあさんです。	生命体の連続を「今」と「むかし」で流動的に捉えられたか。

五、まとめ ●(5)を読む 今、みんなは六年生、でもこの今がむかしになるときは、おとうさんやおかあさんになっている時ですね。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 昔 おとうさん 赤ちゃん </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 今 おじいちゃん おかあさん </div> </div>	●「今」と「むかし」が分かるように。写真を見せる。(実物投影器)
●自分の問題として、流動的に時間を考えることができたか。		

九 評価

生命体の連続として、今・むかしを流動的に捉えることができたか。

ノンちゃん (1)

ノンちゃんは、小学校の二年生です。

ある晩、ノンちゃんは、寝ながら、お母さんからお話を聞いていました。

「むかし、むかし、あるところにね、……」
と、お母さんは始めました。

けれど、ずっと前もむかしなら、少し前もむかしです。ずっとまえならちよんまげを結っているけれど、少し前なら結っていません。だから、ノンちゃんは聞きました。

「お母さん、どのくらいむかし。」

お母さんは、すぐ答えてくれました。

「おじいちゃんのおとうさんが、子どものころ。」

そのとき、なんのかげんか、まつ暗い部屋に寝ていたノンちゃんの目の前に、ひとすじの白い光が、さっと流れたのです。それは、ほかの人にわかりやすくないならば、ノンちゃんを中心に前後にのびている、長い果てしない道でした。

ノンちゃん (2)

そして、道の一方は、まつ暗いところへ続き、もう一方は、明るい光の中に消えていました。明るい光は、まぶしくて、何も見えません。暗いほうは、暗いのだ

から、なお見えません。ただ、まつ暗くなる少し手前のほの暗いところに、何か――

が、ごよごよ、たくさん動いていました。

ノンちゃん (3)

その中に、ちよんまげに結った小さな子どもがただひとり、地面にしゃがみこむようなかつこうで、余念もなく遊んでいる姿が、これだけははっきり、ノンちゃんの目にうつりました。

ノンちゃん (4)

それが、ノンちゃんの知らない、おじいちゃんのおとうさんの「子どものころ」です。

その晩のお母さんの話は、何だったでしょうか。ノンちゃんは覚えていません。とにかく、ノンちゃんは、お話なんか上の空で、夢中で、「むかし」のことを考えていました。「むかし」がノンちゃんをしめつけました。

ノンちゃん (5)

「むかし」でなく、「今」自分はどうして、おかあさんのお話を聞いている。……なんとという不思議なことだろう。おじいちゃんのおとうさんにも、やはり、その人のおかあさんから、このようにしてお話を聞いた「今」が、あったはずです。でも、それは「むかし」に

なってしまう。そして、今、ノンちゃんは、こうしておかあさんといえます。けれど、その「今」も、どんどんけて、「むかし」になってしまいます。

いつの間にか、ノンちゃんは、すっかりおかあさんにつかまっていました。

(石井桃子「ノンちゃん雲にのる」から
授業目的に合わせて改編した)

平成十三年八月七日

授業記録

※教師は実名を漢字で表記し、児童は仮名をひらがなで表記した。

時間	発言者	内容
0'	中川	<p>☆開始前 それそれが持参した昔の写真を見せあいながら盛り上がっている。</p> <p>●今日の勉強は浮かんたことを話してくればいいのです。これから「ノンちゃん」というお話をみんなに読んでもらいます。ノンちゃんの心の中味はどんななんだろうということを生も分らないところがあるから、みんなに教えてもらいたいです。</p> <p>〈資料配布〉 〈1〉を読む 「ノンちゃんは小学校の2年です。…おじいちゃんのお父</p>
	小林	

中川	<p>さんが子どもの頃」</p> <p>〔板書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ちよつとストップ。ここ分かるかな。おじいちゃんのお父さんが子どもの頃って。おじいちゃんのお父さんって誰？ ●ひいおじいちゃん。 ●ひいおじいちゃん、おうちにいる人いる？ ●死んじゃった。ひいおばあちゃんがいる。 ●ひいおじいちゃんやひいおばあちゃんが子どもの頃って、それが昔々っていつているんだね。 <p>〔続き読む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノンちゃんを中心に前後に伸びている長い果てしない道って何だろう。 	13'
中川	<p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分かるような気がする。 ●分かるような気がする？ ●分かるような、分からないような。まだ言えるような状態じゃない。 ●ノンちゃんを中心に前後に伸びている長い果てしない道っていうのはなんかノンちゃんがどこまでも続く長い道に立っている気がする。 <p>〔板書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●こんなふうに長い道があったら、ここにノンちゃんが立っているよ。 	14'
中川	<p>うな気がする。</p> <p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一筋の白い光とか書いてあるよ。 	16'
中川	<p>〔配布〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次、いつてみようね。 <p>〔(2)を読む〕「そして道の一方は…何がごによごによたくさん動いていました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●えっ。こえー。 〔ざわざわする。〕 ●何だよ、これ。 ●何か、お化けみたい。 ●お化け。出た。何のお化けだろう。 ●ゴキブリ。ジョーク、ジョーク。 ●ひできさん、どう？ ●分かりません。 ●ネズミ？ ●何か、動いているっていうから生き物みたいに思っているのかな。でも、お化け。 ●何のお化けだよ。ひいじいちゃんやひいばあちゃんのお化け。 <p>〔(3)を読む〕「その中にちよんまげに結った…」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノンちゃんの目に映ったものって何だろうね。 ●ちよんまげに結ったってのがわか 	17'
中川	<p>らないって。</p> <p>〔ゆうやの代弁〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ちよんまげって知っているかな。お相撲さんの頭にのっかっている。ちよんまげに自分の髪を結っている。 ●ちよつとちよんまげに結ってみようか。 ●これはずつともぐつてもらおうか。地下に。これはずつと上に上がってもらおうか。 ●意味分らない。 ●そうするとだんだん天国に行く。 ●下は地獄か。 ●ノンちゃんを中心にしてひじひじじいちゃん、ひいじいちゃん、じいちゃん、お父さん、ノンちゃん、ひひ孫、ひひ孫とさつきいつていた一本の長い道っていつたい何なんだろう。ちよつと6年生らしくなってきたね。 ●家系図。家系図っぽいやつ。何代目とか。 ●家系図。家系の系、何が系になっているんだろう。 ●家系図の系って一本の筋だよ。この筋って何。 ●一番最初に出てきた一筋の白い光が筋になっている。 ●もう一息。この光の白い筋っていうのはひいじいちゃんにもじいちゃんにもお父さんにもノンちゃん 	34'
中川	<p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●何か、動いているっていうから生き物みたいに思っているのかな。でも、お化け。 ●何のお化けだよ。ひいじいちゃんやひいばあちゃんのお化け。 	18'
中川	<p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●何か、動いているっていうから生き物みたいに思っているのかな。でも、お化け。 ●何のお化けだよ。ひいじいちゃんやひいばあちゃんのお化け。 	19'
中川	<p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●何か、動いているっていうから生き物みたいに思っているのかな。でも、お化け。 ●何のお化けだよ。ひいじいちゃんやひいばあちゃんのお化け。 	18'
中川	<p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●何か、動いているっていうから生き物みたいに思っているのかな。でも、お化け。 ●何のお化けだよ。ひいじいちゃんやひいばあちゃんのお化け。 	19'

かなえ

中川

柴田

ひでき

中川

小林

中川

小林

中川

小林

ゆうじ

中川

んにもノンちゃんの子どもにも孫にもひ孫にもひひ孫にも繋がっているものは何だろう。

●歴史。

●ノンちゃんにも子どもにもずっと繋がっているよ。

●ひできさんは昨日家の古い写真を見たよね。何か思わなかった？

●あまり思わなかった。

●家の歴史でいいかな。次へいきましよう。

(4)を読む)「それがノンちゃんの知らないお父さんのおじいちゃんが子どもの頃……」

●夢中で昔のことを考えていました。昔がノンちゃんをしめつけましたって何これ？何だろう。

●このとき考えていたノンちゃん、何にこだわっているの？

●これでいったら(板書を示して)昔って何だ。どこだ。ここにノンちゃんがいて、これみんなが作ってくれたのよ。昔といったらこの中どこ？

●暗い方。ひいじいちゃんの辺り。

●みんなはあんまり悩まないで昔といったら暗い方じゃないのかと6年生だから悩んでいないけど、でもノンちゃんはかなり悩んでいる。頭がこんがらがっている。

●じゃ、ここで昔を考えるためにみんなに見てもらいたいものがある

中川

中川

ゆうや

柴田

ゆうや

中川

ゆうじ

なおき

小林

女子

ゆうや

中川

小林

○○

かなえ

中川

小林

の。それ見たらひよつとして分かるかも知れない、ノンちゃんの苦しみが。

(テレビに親子の写真を写そうとするが、うまくいかない)

●ヒント。実は写真です。

(操作ミスのため時間がかかる。)

●この写真を見てください。この写真、見覚えある人。僕のじゃないかなって。このクラスの人の写真を借りたんだよ。

(手元の写真とテレビの写真をしきりに見比べて、考えている)

●ゆうや君のじゃない。

●俺のじゃない。

●ゆうや君のじゃない。

●ひでき君じゃない。

●髪型、○○君に似ている。

●書くね。お父さん、お母さん、赤ちゃん。

(ゆうやの別の写真を見ながら)同じ。同一人物じゃん。

●うそ。なんで。あつ、おれの。

●今ここに写っている写真はゆうや家のものです。

●お父さん、ゆうや君、お母さん？

●えっ。

●その辺りはもうカラーだよ。

●これは赤ちゃん、お母さん、お父さんでしょ。

●図にすると、お父さん、お母さん、赤ちゃん。これでいい。この今は。

ゆうじ

まり

ゆうや

ゆうじ

ゆうや

ゆうじ

小林

子ども

ゆうや

小林

中川

中川

中川

●ゆうや君のお父さんじゃなくておじいちゃんじゃない。

●ゆうや君は赤ちゃんじゃない。

●俺だったらすごいよ。

●真ん中の赤ちゃんはお父さんじゃないの。

●お父さん、違うよ。お父さんは三条(生まれ)だから。

●お母さん。

●赤ちゃんは誰？

(一斉に)ゆうや君のおばさん。お母さん。

●えっ。これが。

●ゆうや君の今のお母さんの写真ある？ 入学式の時の。

(テレビで入学式の写真を写す)

●これがゆうや君のお母さんなんだよ。だから、これがゆうや君のお母さんってことあり得ないんじゃないの。

●これがゆうや君のお母さんでしょ。(入学式の写真示す)

これがゆうや君のお母さんの写真かな？(古い白黒写真を示す)

●ここが赤ちゃん。昔を考えるとこういうことなんだけど、この写真の時には赤ちゃん、お父さん、お母さんだね。この赤ちゃんはいったい誰なんだろうと今考えているんだよね。ゆうや君かな？

●これがヒントです。貼っておきましょう。

中川

- 何の昔に悩んでいたのでしょうか。
- ここ、一世代ずれているというところもすごいよ。

ここが今でもここを今とすればこちらは何？

- 昔になる。

● ゆうや君のお母さんが赤ちゃんの時には

● ゆうや君のお母さんが赤ちゃんの時にはどうだったの

- 昔は今だった。

● その証拠は、さつき見た(ゆうや家の昔の写真を貼る)

● このときには今だったんだけど、今から見れば何なの？

- 昔だった。

● 今は今じゃない。2010年くらいになつたら？

- 今は昔。

- 今が昔。

- 昔は大昔。

- 縄文時代は

- 超大昔。

● 2010年になってしまえばこれがまた今が昔になる。

- かなり昔。大昔。超大昔。

● 今が昔。昔はかなり昔。超大昔。だんだんちよつと分かったような気がするね。

- これが最後だね。

(5)を読む「昔でなく今。自分は…」

● さあ、何でお母さんにつかまってる

中川

小林

中川

小林

中川

まみ

まり

ゆうや

まり

ゆうじ

小林

まり

中川

子ども

中川

小林

まり

まり

中川

かなえ

中川

中川

まみ

中川

子ども

中川

いたのでしょうか。

(問)

● 何か、ノンちゃんのお母さんがおばあちゃんとかになるんじゃないかと思った。

● 今がどんな昔になってしまおうんじゃないかと思うから不安になったのかも。

● おばあちゃんになってしまおうかも知れないと思って今のうちに

● 今のうちにつかまえておこうと思つたのね。

● みんなも2010年になったら今は小学生だけど、それはもう今ではなく、2010年になったら今の自分は昔になってしまふんだね。

● 今日はどういってお勉強だったか分かつたかな。

● 昔とか考えたこと無かつたけどこういう機会があつて良かった。

● 最後に一つだけ。ここに家系図と一つの家系図。こちらはゆうや君のうち。これはノンちゃんの家系図。家というのは？

- いえ。
- うち。

● おうちの中がこういうふうな時間でもつて昔と今、未来。それがおうちの中にずーっと入っているんですよと言う勉強をしてみたかっ

難波

中川

子ども

たの。今と昔の勉強でした。それがおうちの中に入ってるんだよ。こういう勉強でした。これで終わりにしますが最後に広島大学の先生です。一言。

● お疲れさまでした。みんなおうちにおじいさんとかおばあさんは身近ですよ。僕の家は都会だったから、こういう写真をあまり持っていないくて、みんなもっているんだよね。それですごい。もしかしたら幸せなことかも知れないよ。こういう授業を素直に受け止められるというのはすごく幸せなところにいるなあと思うけど、ここにいるとあんまり分からないだよ。

● あいさつが終わつたら今の写真を撮りたいと思います。

(並びながら) これも何十年もたつたら昔の写真になるのかな……(等々のおしゃべり)
※授業後改めて互いの写真を見せあい友だちや参観者に説明することがしばらく続いた。